

「よしととさんべで秋体験！！ムシスーツづくり！！」

1 趣 旨

- ・講師による紙芝居を鑑賞し、親子で歌を歌ったり、ダンスをしたりする。また、ワークショップでは工作を行い、親子で一緒に活動する機会を提供する。
- ・屋外を散策し、秋の三瓶の自然を肌で感じる。また、学芸員の解説を聞き、昆虫や草花への興味関心を高める。
- ・家族同士で一緒に活動する中で、異年齢の人たちと幅広く関わり合う力を育てる。

2 事業の概要

- (1) 期 日 10月12日(土)～10月13日(日) <1泊2日>
- (2) 会 場 国立三瓶青少年交流の家
- (3) 講 師 よしと氏
- (4) 協 力 島根県立自然館サヒメル
- (5) 対 象 小学生とその家族
- (5) 参加者 69名(子ども35名 大人34名)
- (6) 日程・内容

	13:20	14:00	14:30	16:30	17:10	17:30	19:15	20:30	22:00
1日目 (土)	受 付	は じ ま り の 会	【ワークショップ】 ☆よしとと工作 「ムシスーツを作ろう！」	夕 べ の つ ど	夕 食 ・ 入 浴	【紙芝居】 ☆よしとの紙芝居 「さんべスペシャルバー ジョンで楽しもう！」		入 浴 ・ 就 寝 準 備	就 寝

	6:30	7:00	7:40	8:40	9:00	11:30
2日目 (日)	起 床	朝 の つ ど い 清 掃	朝 食 ・ 清 掃	退 所 点 検	【自然散策&昆虫のお話】 ☆ムシスーツで変身 「ムシになって外に飛び出そう！」	お わ り の 会

3 事業の特色

①プログラムデザインのポイント

2日間を通して、親子で創作活動をしたり、体を動かしたり、ふれ合う機会を多くもてる内容を目指した。歌やダンスを取り入れ、家族で楽しめる紙芝居を行っている、よしと氏に講師を依頼し、内容を十分に検討することで、目的に沿った事業にすることができた。また、「昆虫」をテーマにすることで、子どもたちの興味関心を高めるとともに、初日の「ワークショップ」から、2日目の「自然散策&昆虫のお話」まで、繋がりのあるプログラム展開を行うことができた。

②運営のポイント

1日目の「ワークショップ」は、段ボールで昆虫の衣装「ムシスーツ」づくりを行った。各自の独創性を発揮できるよう、自由制作を基本としたが、工作に不慣れな参加者もいることを想定して、講師と試作を行い、6種類の昆虫の型紙も用意した。また、頭に被るための土台になる部分は、全員が作る共通部品として、作り方の用紙を事前に参加者に送付し、各家庭で製作していただいたため、当日の導入や展開をスムーズに行うことができた。

材料の段ボールや飾り、道具なども、各自が作りたい昆虫に応じて必要な分量を、各自で持参したことで、それぞれが作りたい「ムシスーツ」を作ることができた。

夜の「紙芝居」でも、簡単な工作を行い、製作したお面を付けて踊ったり、施設のプログラム（キャンドルのつどい）を取り入れたりして、事業の趣旨や施設を活かした活動を行うことができた。

2日目は、製作した「ムシスーツ」を着用し、自然散策を行いながら島根県立自然館サヒメルを訪れ、学芸員から昆虫の解説を受けた。事前に学芸員に活動の趣旨を伝え、内容を検討したことで、昆虫の観察や実験も加え、より知識の高まる活動にすることができた。

③ 広報のポイント

三瓶周辺地域と、講師が主に活動の拠点としている島根県東部の小学校1～3年生にチラシ配布を行った。今回はそれに加え、道の駅や公共施設など、多くの人の目に触れやすい場所にもチラシ、ポスター配布を行った。結果、これまで施設を利用したことがない家族からも多くの応募があった。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計

(%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	93	7	0	0
プログラム	100	0	0	0
運営	97	3	0	0
職員の対応	100	0	0	0

(2) 参加者の声

- ・創造力を掻き立てられるムシスーツづくりに、よしとさんの紙芝居もあって大・大・大満足です。参加できて良かったです。
- ・家族で宿泊でき、充実した活動ができました。学ぶことも多く、良い教育の機会になりました。他の活動にも、ぜひ参加してみたいです。

5 成果と課題

《成果》

- ・2日間を通して、ものづくりや工夫創造する楽しさ、昆虫や自然への興味関心を高める活動を行うことができた。施設のプログラムや周辺の自然散策も取り入れたことで、初めて参加した家族にも施設の紹介を行うことができた。
- ・近隣にある「島根県立三瓶自然館サヒメル」と協力して活動を行ったことで、互いに利用者の拡大に繋がる広報を行うことができた。今後も、近隣の施設と幅広い連携の方法を検討していきたい。

《課題》

- ・広報について、今回は通常行っている学校へのチラシ配布に加え、道の駅や公共施設へのポスター掲示を行った。立ち寄った施設でポスターを見たり、本所や講師の SNS から情報を得たりした参加者も多く、応募者の傾向を見て、より効果的な広報の手法を検討していきたい。



(担当：企画指導専門職 武田 尚志)